SPODフォーラム2015
2015.8.26 10:00~12:00

教学IRにおける
リサーチ・クエスチョンの作り方
～教育改善の実現に向けて～

立命館大学 教育開発推進機構
川那部隆司

本日の流れ

1. 教学IRの基礎

- 教学IRとは
- 点検・評価から改善へ

2. 改善のためのリサーチ・クエスチョンを作る（ワークショップ）

1. 改善点を選ぶ
2. クリニカル・クエスチョンを考える
3. リサーチ・クエスチョンを作る
4. 必要なデータを考える
5. 全体での共有する

1. 教学IRの基礎

IRとは？

Institutional Research（機関調査）の定義

「高等教育機関レベルの計画立案や意思決定に有効なデータの分析および提供を行う組織的活動」（Peterson, 1999）

「機関の計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われるリサーチ」（Saupe, 1990）

IRとは？

目的

- 計画立案、政策形成、意思決定の支援
（特にこれらの**合意形成を円滑にする**）

方法

- 学内外のデータを収集し、分析して、その結果を提供する

基本的には学内での活用（教育・経営改善）

ただし、IRで得られた結果の一部は外部評価への対応や社会への説明責任を果たす上でも使える

IR実践のための指針（中井ほか, 2013）

IR担当者が心掛けるべき7つの指針

1. 大学の目標に資する活動を進める
2. データを意味のある情報に変換する
3. データに基づく判断の有効性と限界を理解する
4. 客観性と中立性を重視する
5. 調査と公表においては倫理面に配慮する
6. 学内外の多様な関係者と連携を進める
7. 専門性を高める機会をつくる

点検と評価

点検と評価はそもそも別の次元

点検	学習成果や学生の学びの実態の把握 「○○はどうなっているか？」を明らかにする
評価	点検結果に対する価値づけ 「○○という状態の良し悪し」を判断する

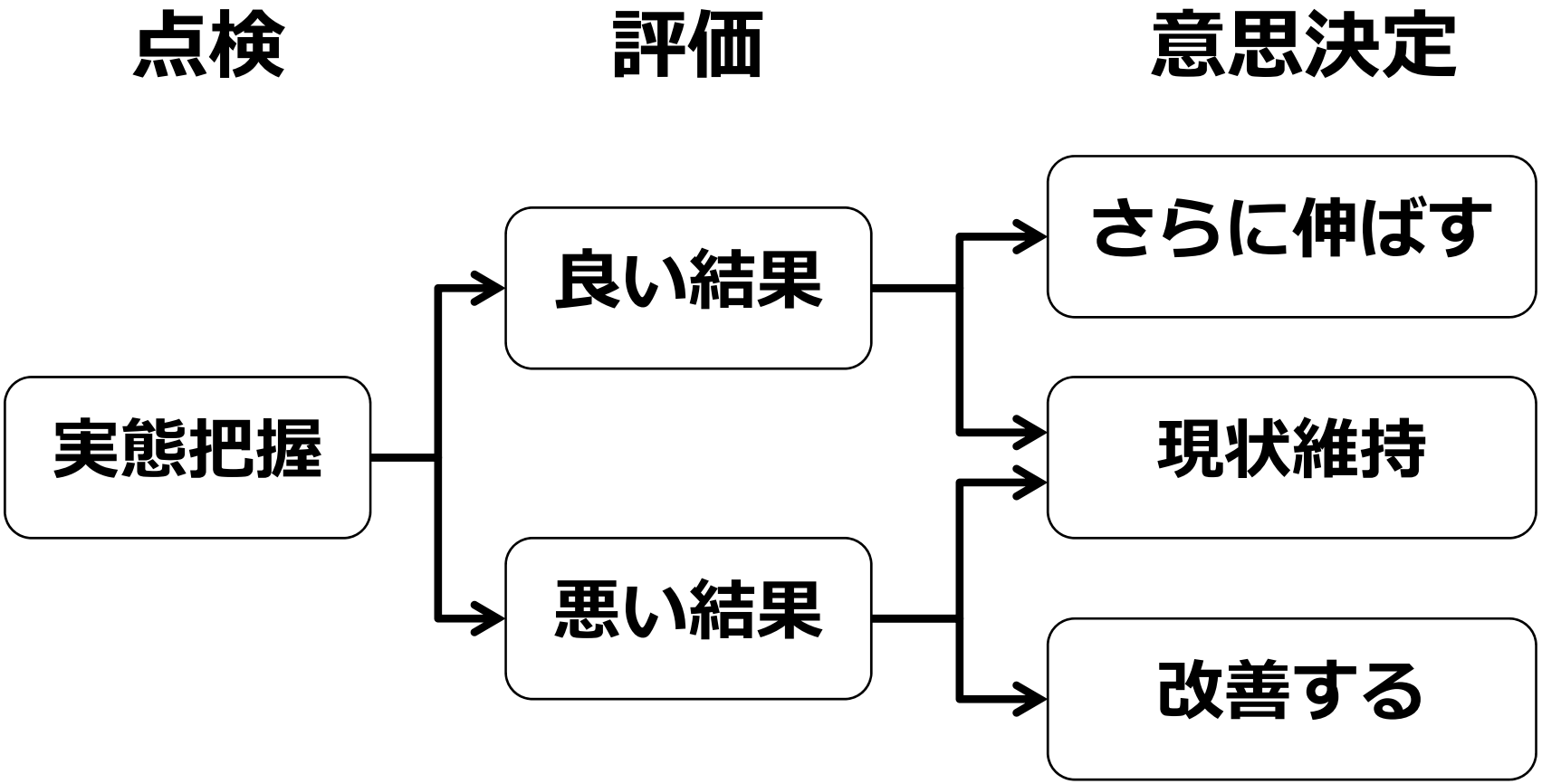
1週間の学習時間が０分の学生が２割存在する

- 客観的な数値として把握する＝点検

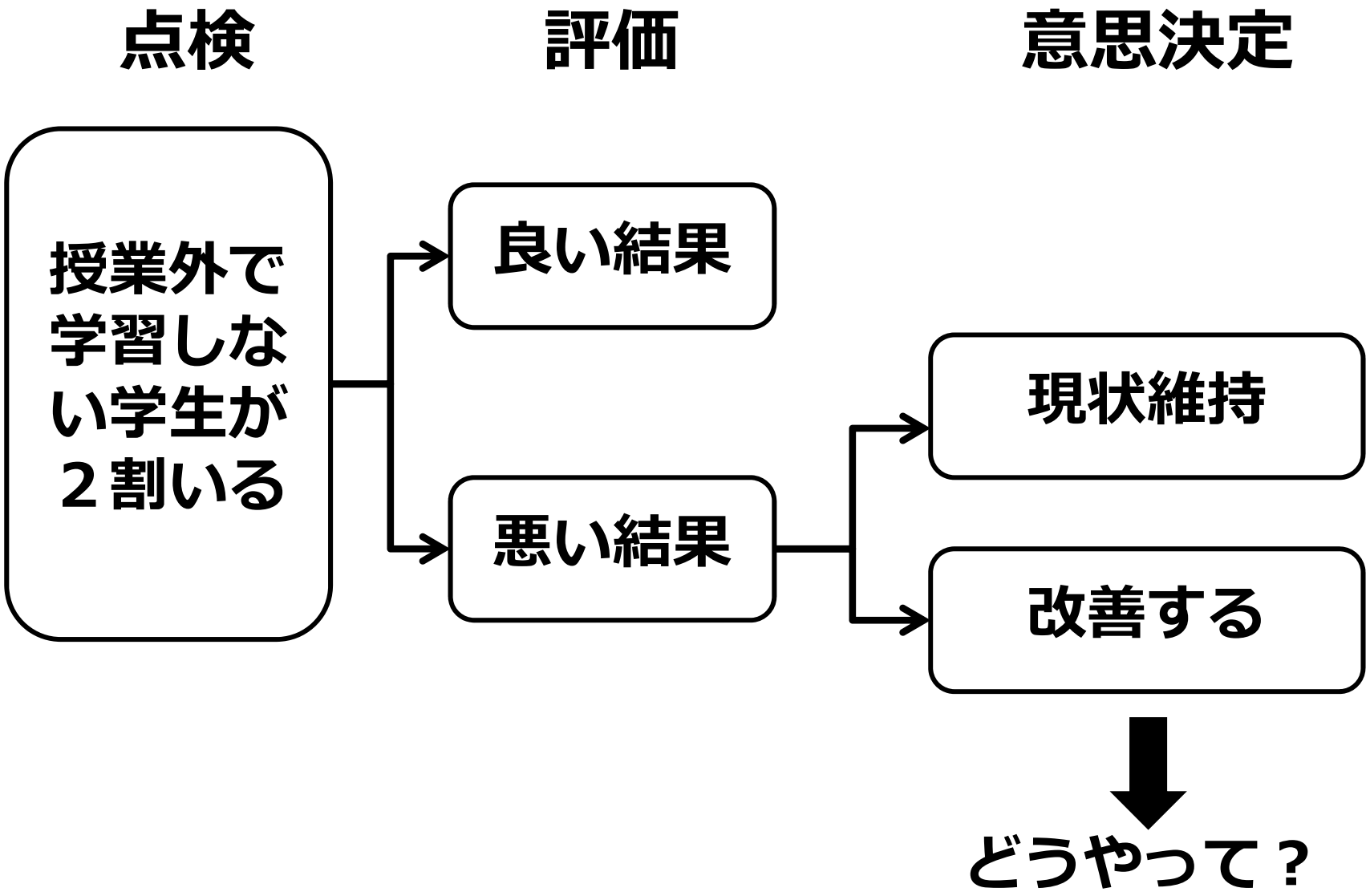
２割存在するのは非常にまずい ←目標に照らして

- 点検結果に対して価値づけする＝評価

点検・評価と意思決定



点検・評価と意思決定（例）



点検→評価→意思決定→改善

教育目標や計画に照らした点検・評価

- 学生の学びの到達度の確認
- 学生の学びの状況を把握

点検→評価→意思決定を受けて・・

- 誰が、なぜ、いつ、どこで、どのように、何について、改善が必要かをまず解明
- 特定の入試方式？基礎学力・意欲が低い層？初年次？授業外の学習場所？特定の科目？などなど

点検・評価から改善までを見通す

STEP 1. 点検する

- 実態を把握

STEP 2. 評価する

- 実態の良し悪しを目標に照らして判断

STEP 3. 意思決定する

- 評価結果を踏まえて、どうするかどうかを決定

STEP 4. 改善策を検討する

- 問題の原因を解明し、介入点と方法を検討

STEP 5. 改善策を実施する

- 改善策を実施

リサーチ・クエスチョンを考える

教学IRはリサーチ活動

- アンケート、テスト、面接、etc.
- ○○分析、○○検定、etc.

これらはあくまでもリサーチの方法

そもそも何のためにリサーチを行うかが明確でなければ方法を選び取ることはできない

- **リサーチ・クエスチョン（RQ）**

＝リサーチによって明らかにしたい疑問

点検・評価のためのRQ

点検や評価は目標・計画に即して行う

- 人材育成目的
- 教育目標
- ポリシー

リサーチ・クエスチョンはほぼ自動的に決まる

- ○○は達成できているか？
- ○○は実現できているか？

➔方法を決めてしまえば、ルーティン化できる

改善のためのRQ

点検・評価に基づき、改善することを決めたとき

具体的には何をどのようにすれば良いか？

問題の原因を特定する

- 誰が、いつ、どこで？
- なぜ、どのように？

これらを明らかにしなければ効果的な改善を実施することは難しい

➔そのためのRQを考え、教学IRを進める

改善のためのRQを考える

考えるヒントは経験と感覚

RQ⇔CQ: Clinical Question

- 日常経験の中で出てきた問いや疑問
- 普段の生活で抱く素朴な予想

さまざまな関係者が普段感じている疑問やなんとなく思っていることを共有することが、RQを作り出す第一歩になる

→CQを調査可能な形に洗練化してRQにする

2. ワークショップ

改善のための
リサーチ・クエスチョン
を作る

1. 改善点を選ぶ（5分）

グループで、次の5つの意思決定から1つを選んでください。

A.学生の授業外学習時間を伸ばす

B.学生の留学率を向上させる

C.学生の学習意欲を高める

D.学生の就職率を高める

E.その他（グループで決める）

2. CQを考える（15分）

選んだ改善点について、各自で直感的に思いつくことを挙げ、肯定文で表現しましょう。それをグループで共有して、肯定文を3つ選んでください。

- どのような学生が？
- どの時期に？どこで？
- なぜ？どのように？

根拠は自分の経験や聞いた話でOK

「○○な学生は◇◇だと思う」

3. CQをRQに作り変える（15分）

選んだ3つのCQ（肯定文）に？マークをつけ、疑問文にします。

○○な学生は◇◇だと思う

→○○な学生は◇◇なのだろうか？

△△経験は学生の意欲を高めると思う

→△△経験は学生の意欲を高めるのだろうか？

4. 必要なデータを考える（15分）

RQにも良し悪しがある

- 調査のコストが高すぎる
- 倫理的な問題で学生に聞けない

RQに答えるためには、どのようなデータが必要かを考えてください。さらに、それを踏まえて、問いに答えることが可能かどうか（データが収集できるかどうか）を判断してください。

RQのヒント

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校

Institutional Research and Assessment

セントラルフロリダ大学

Operational Excellence and Assessment Support

それぞれHPに実践事例の詳細があります

（目的、方法、結果、具体的な改善とその効果）

ご清聴ありがとうございました